

耳栓を使用すると、かえって危険ではないか

Q

耳栓などの防音保護具を使用しない理由として、『耳栓を使用すると、音が聞こえなくなるので、かえって危険だ』、『機械の調子が聞き分けられなくなる』、『作業上の会話ができなくなる』などがあります。
これらの理由にも一理があるように思われますが、実際はどうでしょうか。

A

上述のような理由で、耳栓などの防音保護具を使用されない方は、一度下記のことを参考にして、防音保護具を使用した方がよいか、使用しない方がよいか考えて下さい。

① 騒音による聴力障害は治癒しない。

耳栓を外せば聴力は元に戻るが、騒音による聴力低下は元には戻らない。騒音性難聴になれば、耳栓を使用しなくても聞こえなくなる。

② 騒音職場での使用実績がある。

耳栓の着用率が100%であり、安全および作業上問題がないという事業所がある。

③ 耳栓等を使用しても、話し声などを聞き分けることができる。

耳栓等を使用すると話し声などは小さく聞こえるが、まわりの音も小さく聞こえるので、話し声などを聞き分けることができる。

(例えば、まわりが静かであれば、小さな時計の音が聞こえる。)

なお、耳栓等を使用すると、まったく聞こえなくなる難聴者については、配置転換が望まれる。

④ 会話域での聴力低下が小さい耳栓を使用する。

騒音の発生状況によっては、会話域での聴力低下が比較的小さい耳栓（第二種）を使用することができる。

聴覚保護具のJISの改正（2020年）に伴い、防音保護具が聴覚保護具に耳覆いがイヤーマフとなり、第1種耳栓、第2種耳栓の分類がなくなっています。